

# 令和2年度 りんご病害虫防除暦

【表示されている農薬の使用基準は令和元年12月4日現在の登録内容です】

JA佐渡りんご倶楽部

回数	散布時期	主な対象病害虫	10a散布量成木(SS)kg	薬剤名および散布濃度	水10.0L当たり薬量	収穫前日数	使用回数	使用上の注意
1	発芽～3週間以内	ハダニ類	300	ハーベストオイル 200倍	500 ml	-	-	・前年ハダニが多発した場合は実施する。
		黒星病		ベフラン液剤25 1500倍	66 ml	前日	3	・混用順は①ハーベストオイル②ベフラン液剤25とする。 ※展葉後は3週間以内に散布のこと(葉害の恐れあり)
2	4月下旬 (開花直前)	黒星病、うどんこ病	300	インダーフロアブル 5000倍	20 ml	14	3	
		シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホリガ、キンモンホソガ、カバラムシ類		サムコルフロアブル10 5000倍	20 ml	発生初期(前日)	3	
3	5月上旬～中旬 (落花直後)	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、うどんこ病	400	テーク水和剤 800倍	125 g	30	3	・花腐れに注意。開花期から落花15日くらいまでは展着剤は使用しない
		リンゴハダニ、ナミハダニ、キンモンホリガ、キンモンホソガ、ハマキムシ類		カスケード乳剤 2000倍	50 ml	14	2	・カスケード乳剤に替えてサムコルフロアブル10 5000倍(収穫前日、3回まで)でもよい
				クレフノン 80倍加用	1,250 g	-	-	
臨時	5月中旬	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	400	オーソサイド水和剤80 800倍	125 g	前日	6	・黒点病多発園は臨時散布する。
4	5月下旬 (落花10～15日後)	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	400	アントラコール顆粒水和剤 500倍	200 g	45	4	・この時期に越冬カメムシの発生が懸念されるので、注意し、臨時防除情報に注意する。 ・花腐れに注意。開花期から落花15日くらいまでは展着剤は使用しない
		クワシロカイガラムシ、シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類、リンゴワタムシ		ダースバンドF 3000倍	33 g	45	1	・シンクイムシ、ハマキムシ対策としてフェロモン剤 コンフューザーNを200本/10a設置する ・クレフノンの代わりにバイカルティ1000倍でもよい
				クレフノン 80倍加用	1,250 g	-	-	・ <b>昨年、ハダニが多かった園地ではダニ剤(ハロックフロアブル)2000倍(収穫前日、1回まで)を加用散布する。</b>
5	6月上旬	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、炭疽病	500	デランフロアブル 2000倍	50 ml	60	3	・ <b>デランフロアブルに替えて、チオノックフロアブル(500倍)を使用しても良い。</b>
		シンクイムシ類、カメシ類、リンゴワタムシ		バリアード顆粒水和剤 2000倍	50 g	前日	3	・バリアード顆粒水和剤に替えて、スタークル顆粒水溶剤2,000倍でもよい。(前日、3回まで)
				クレフノン 80倍加用	1,250 g	-	-	・クレフノンの代わりにバイカルティ1000倍でもよい
6	6月中旬 (落花30日後)	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	オキシラン水和剤 500倍	200 g	14	4	・ <b>リンゴワタムシ多発園ではオリオン水和剤40に替えてウララD F 2,000倍(14日/2回)を混用散布する。</b>
		シンクイムシ類、キンモンホリガ、キンモンホソガ、カバラムシ類、アブラムシ類、ケムシ類、ハマキムシ類		オリオン水和剤40 1000倍	100 g	前日	2	・開花後1ヶ月後の散布とする。(葉害軽減の為) ・オリオン水和剤40に変えてダイアジノン水和剤34(30日/4回)でもよい。
				クレフノン 80倍加用	1,250 g	-	-	・クレフノンの代わりにバイカルティ1000倍でもよい
				展着剤	- ml			
7	6月下旬	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	チオノックフロアブル 500倍	200 ml	30	5	・シンクイムシ被害が多発している樹ではこの頃から袋かけを行うなどの対策をとる。
		シンクイムシ類、キンモンホリガ、キンモンホソガ、カバラムシ類、アブラムシ類		スタークル顆粒水溶剤 2000倍	50 g	前日	3	
臨時	6月下旬	リンゴハダニ、ナミハダニ	500	カネマイトフロアブル 1000倍	100 ml	7	1	・高温によりダニ発生が懸念される場合に散布する。
8	7月上旬	斑点落葉病、黒星病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	<b>フリントフロアブル25 3000倍</b>	33 g	前日	4	
		アブラムシ類、カメシ類、ハマキムシ類、リンゴワタムシ、キンモンホリガ、カバラムシ類		スプライト水和剤 1500倍	66 g	30	2	
臨時	7月上中旬	シンクイムシ類、キンモンホソガ、キンモンホリガ、キンモンホソガ、ハマキムシ類、ケムシ類	500	フェニックスフロアブル 4000倍	25 ml	前日	2	・特にシンクイムシ多発園では臨時散布する。
9	7月中旬	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、炭疽病、輪紋病	500	<b>オーソサイド水和剤80 800倍</b>	125 g	前日	6	・3種類の薬剤を混用可能である。
		ハダニ類		コロマイト乳剤 1000倍	100 ml	前日	1	
		シンクイムシ類、アブラムシ類、キンモンホリガ、カバラムシ類、ケムシ類		ダントツ水溶剤 4000倍	25 g	前日	3	
10	7月下旬	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、赤星病、輪紋病	500	<b>バレード15フロアブル 2000倍</b>	50 ml	前日	2	・この時期以降、早生種のある園地では収穫前日数に気を付けて防除する。
		アブラムシ類、キンモンホリガ、キンモンホソガ、シンクイムシ類		アグロスリン水和剤 2000倍	50 g	前日	2	
				展着剤	- ml			
11	8月上旬	黒星病、黒点病、褐斑病、うどんこ病	500	トップジンM水和剤 1500倍	66 g	前日	6	・収穫期防除は展着剤は使用しない。
		ハダニ類		ダニサラバフロアブル 1000倍	100 ml	前日	2	
臨時	8月上旬	キンモンホリガ、キンモンホソガ、ケムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類	500	サムコルフロアブル10 2500倍	40 ml	前日	3	
12	8月中下旬	斑点落葉病、黒星病、褐斑病、赤星病、黒点病、灰色かび病	500	<b>オンリーワンフロアブル 2,000倍</b>	50 ml	7	3	
		アブラムシ類、シンクイムシ類、キンモンホリガ、キンモンホソガ、カバラムシ類、ケムシ類		モスビラン顆粒水溶剤 4000倍	25 g	前日	3	
臨時	8月中下旬	ハダニ類	500	ダニコングフロアブル 2000倍	50 ml	前日	1	・ダニの発生が見られる場合は単用散布する。
13	9月上旬	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、うどんこ病	500	フルツセイバー 2000倍	50 ml	前日	3	
		シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホリガ、アブラムシ類		ロディー水和剤 1500倍	66 g	前日	2	
14	9月中下旬	斑点落葉病、黒星病、褐斑病、すす点病、輪紋病	500	ベフラン液剤25 1500倍	66 ml	前日	3	
		シンクイムシ類、アブラムシ類、キンモンホリガ、カバラムシ類、ケムシ類		ダントツ水溶剤 4000倍	25 g	前日	3	
臨時	9月中下旬	ハダニ類	500	スターマイトフロアブル 2000倍	50 ml	前日	1	・ダニの発生が見られる場合は単用散布する。
15	10月上旬	褐斑病、すす点病	500	ナリアWDG 2,000倍	50 g	前日	3	

**【薬剤散布における注意事項】（必ず守ってください）**

（注1）

農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。

周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。）

農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！

散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。

防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。

園地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

（注2）

薬剤混用の順序（水和剤混用の場合） 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤

薬剤混用の順序（乳剤混用の場合） 水 → 乳剤

薬剤混用の順序（フロアブル剤、水和剤混用の場合）水 → フロアブル剤 → 水和剤

※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。

◎りんごの摘果剤利用の場合（満開日を調べておく：散布時期を適期に実施してください。※なお摘果剤としては1回しか使用できません）

対象品種：ふじ、つがる、陽光、さんさ、王林他（デリシャス系には使用しない）

※周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（りんご以外に農薬がかからないよう注意しましょう）

散布時期	薬剤名	散布濃度	10a散布量成木	水100L当たり薬量
満開後 10～14日頃	中心果横径 6.5～7.0mm	ミクロデナボン水和剤 1200倍 ニーズ(展着剤) 1000倍加用	手散布500L SS400L	ミクロデナボン水和剤 83g ニーズ(展着剤) 100cc
満開日（2回目散布は2～3日後）	（摘花剤）	エコルーキー 100～150倍	SS400L	エコルーキー 670g～1000g
満開後（2回目散布は3～4日後）	（摘花剤）	石灰硫黄合剤 100～120倍	SS400L	石灰硫黄合剤 830～1000ml

※摘花剤をSS散布での場合は、低回転で行う。

◎りんご落果防止剤利用の場合（散布時期を適期に実施ください。散布後に降雨があっても、再散布はしないでください。）

散布時期	薬剤名	散布濃度	10a散布量成木	水100L当たり薬量と使用上の注意
収穫予定25日前 ※（追加散布を要する場合は収穫15日前）	ストップール液剤 展着剤を使用する。	1500倍	手散布500L SS400L	ストップール液剤 67cc 基本的には単用散布とする。 対象品種：つがる、デリシャス系、紅玉
収穫予定21～7日前に1回散布する。	ヒオモン水溶剤 展着剤を使用する。	1000倍	手散布500L SS400L	ヒオモン水溶剤 100g 基本的には単用散布とする。

◎りんごダニ剤 ※下記薬剤は基本的に年間1回の使用としてください。

薬剤名	登録害虫	使用倍率	収穫前日数	使用回数	特徴
ダニゲッターフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ、リンゴサビダニ	2000倍	前日	1	卵、幼虫、若虫に高い効果あり。成虫に対しては遅効的
カネマイトフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ	1000倍～1500倍	7日前	1	ハダニに各発育ステージ（卵、幼虫、若虫、成虫）に対して高い効果があります。
ダニサラバフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ	1000倍	前日	2	ハダニに各発育ステージ（卵、幼虫、若虫、成虫）に対して高い効果があります。
コロマイト乳剤	ハダニ類、キンモンホソガ、ユキヤナギアブラムシ、リンゴサビダニ	1000倍	前日	1	成虫、卵、幼虫に対して効果が高い。（キリフダ剤）
スターマイトフロアブル	ハダニ類	2000倍	前日	1	既存薬剤に抵抗があるハダニにも優れた効果を示す。（キリフダ剤）
マイトコーネフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ	1000～1500倍	前日	1	成虫、幼虫に高い活性を示す。（キリフダ剤）
ダニコングフロアブル	ハダニ類	2000倍	前日	1	既存薬剤に抵抗があるハダニにも優れた効果を示す。新規剤
バロックフロアブル	リンゴハダニ、ナミハダニ	2000倍	14日前	2	卵、幼虫に対して効果が高い。

◎りんご展着剤 ※場面により使用する展着剤を選択ください。

展着剤名	有効成分と特性	散布倍率	水100Lあたり薬量	注意事項
ネオエステル	ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル系（界面活性剤）	5000～20000倍	20～5ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
アビオンE	パラフィン展着剤（乳化性と表皮保護に優れる）	1000倍	100ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ブレイクスルー	シリコン系展着剤（高い拡張性、汚れ軽減効果、散布後の乾きの速さに優）	5000～10000倍	20～10ml	薬剤調整後に本剤を加え攪拌する（最後に入れる）

◎りんごカルシウム葉面散布剤

薬剤名	成分	散布倍率	水100Lあたり薬量	特徴と注意事項
バイカルティ（晃栄化学）	カルシウム肥料（ギ酸カルシウムCA034%）	1000倍	100g	ビタービット、コルクスポット防止（生理障害防止）。樹勢コントロール、徒長抑制、果肉の軟化・褐変防止（白く汚れない。）落花後10日以降に10日間隔で（薬剤防除と同時）散布

◎りんごアミノ酸葉面散布剤

薬剤名	成分	散布倍率	水100Lあたり薬量	注意事項
富味ナール	海洋魚からの抽出エキス（アミノ酸）	500倍	200g	使用時期：満開後30, 80, 100, 120日目を目安に葉面散布。糖蓄積量を高め、果実の味と色の向上への効果が期待できます。（アルカリ性農薬との混用はできません。）